

Serato Video 1.1

ユーザーマニュアル

このマニュアルは、Serato社(Serato Audio Research Ltd.)の許諾を得て、Serato Videoの英文マニュアルをパイオニア株式会社が日本語化したものです。このマニュアルの無断転載を禁止します。

目次

はじめに

概要	4ページ
システム要件	4ページ
対応ビデオファイル	4ページ

ソフトウェアのインストール

Windowsへのインストール	5ページ
OS Xへのインストール	5ページ
アップデートの確認	5ページ
ソフトウェアのオーサライズ	5ページ
登録	5ページ
ソフトウェアのデ・オーサライズ	5ページ

ハードウェア セットアップ

オーディオ出力	6ページ
ビデオ出力 - コンピューターとの接続	6ページ
Serato Videoを4デッキ対応のSerato DJ対応ハードウェアで使用する場合	6ページ

さあ、始めよう

Serato Videoの起動	7ページ
アウトプット ウィンドウ	7ページ
Serato Videoのインターフェース	8ページ
Serato Videoにファイルをロード	10ページ
ビデオの再生	10ページ
オーディオとビデオの関連づけ	11ページ
メディアクレート	11ページ
オフラインプレーヤー	12ページ

ミキシング

アップフェーダーのリンクを解除	12ページ
クロスフェーダーのリンク	12ページ
ビデオエフェクトの概要	12ページ
テキストエフェクト	12ページ
テキストエフェクトの作成と使用	13ページ
テキストエフェクトのアニメーションの使用	13ページ
イメージエフェクト	13ページ
イメージエフェクトの作成と使用	14ページ
イメージエフェクトのアニメーションの使用	14ページ
フェーダートランジションの概要	14ページ

MIDI

概要	15ページ
MIDIコントローラーのセットアップ	15ページ
ボタンとつまみの割り当て	15ページ
利用可能なボタンとつまみ	15ページ

ビデオエフェクトとトランジションエフェクト

Audio Reactive	16ページ
Equalizer	17ページ
Lighting	17ページ
Filter	18ページ
Record	18ページ
Transform	19ページ
トランジションエフェクト	19ページ

ソフトウェア セットアップオプション

Outputオプション	21ページ
Controlオプション	22ページ
Effectsオプション	22ページ
Infoオプション	23ページ
Authorizeオプション	23ページ

ビデオフォーマットとコーデック

QuickTime	24ページ
Directshow	24ページ
ビデオファイル	24ページ

トラブルシューティング

25ページ

サポート

26ページ

はじめに

概要

Serato Videoは、Serato DJのプラグイン・ソフトウェアです。Serato DJ対応のハードウェア、MIDIコントローラ、マウス、またはキーボードから、ビデオエフェクトやフェーダートランジションをコントロールしながら、ビデオファイルを再生、ミックスする機能を搭載しています。

システム要件

Serato DJの最新バージョンを使用して、Apple® QuickTime® 7以降をインストールすることを推奨します。

Windows PC

Microsoft Windows 7

2GHzのCore Duo以上のCPUを搭載していること。独立したグラフィックカードを搭載していること。

2GBのRAMと、システムドライブに5GBの空き容量があること。 - ビデオファイルの保存スペースとして

Mac

Mac OS X 10.6/10.7/10.8 (それぞれの最新バージョンであること)

2GHzのMacbook以上であること。

2GBのRAMと、システムドライブに5GBの空き容量があること。 - ビデオファイルの保存スペースとして

ハードウェア

以下のウェブサイトより、Serato DJが対応するハードウェアリストを参照してください。

<http://serato.com/hardware/dj>

推奨グラフィックカード

256Mバイト以上のVRAMを持つNVIDIA Geforce® 8400以上、またはATI Radeon™ X1650以上のグラフィックカード

注意：Serato Videoは、お使いのグラフィックカードの性能に応じて、そのパフォーマンスが変化します。

性能の低いグラフィックカード、とりわけCPUに統合されているグラフィック機能を使用すると、ビデオエフェクトの数や利用可能なフェーダートランジションが制限される可能性があります。

注意：Intelのグラフィック機能を使用しているWindowsコンピュータを、Serato Videoは現在サポートしておりません。

詳細は、Seratoのウェブサイトをごらんください。

対応ビデオファイル

以下の拡張子をもつビデオファイルに対応しています。 mov、m4v、mp4、avi、flv、mpg、mpeg、dv、qtz(Macのみ)

対応ビデオコーデック

H.264、DV、Motion JPEG A、Motion JPEG B、MPEG-4

その他のコーデック

Serato Videoは、サードパーティ製のコーデックがインストールされていれば、そのコーデックファイルを再生しようとします。

(例：DIVX、Xvid) QuickTime®やDirectShowの標準的でないコンポーネントを、Seratoは正式にサポートしておりません。

これらのファイルを再生するには、追加のコーデックパッケージをインストールする必要があり、Seratoによって正式にサポートされていないコーデックを試してみたい上級者のみに推奨します。

Serato Videoは、MPEG-1またはMPEG-2のビデオを再生しません。

対応オーディオコーデック

PCM、AAC、MP3

ソフトウェアのインストール

Windowsへのインストール

ダウンロードしたzipファイルを解凍すると、Serato Videoのインストーラーが現れるので、それを起動します。

以降は、画面の指示に従ってください。

インストールが完了したらSerato DJを起動し、「ソフトウェアのオーサライズ」の項に従って、Serato Videoをオーサライズしてください。

OS Xへのインストール

ダウンロードしたdmgファイルをダブルクリックすると、Serato Videoのインストーラーが現れるので、それをダブルクリックします。

インストールが完了したらSerato DJを起動し、「ソフトウェアのオーサライズ」の項に従って、Serato Videoをオーサライズしてください。

アップデートの確認

ソフトウェアは随時アップデートされています。[Serato.com/video/downloads](https://serato.com/video/downloads) でSerato Videoの最新バージョンを確認してください。

ソフトウェアのオーサライズ

Serato DJのSetup画面で、Serato Videoをオーサライズしてください。Setup画面からExpansion Packsタブをクリックし、Serato Videoを選択します。次に"Enable Serato Video"チェックボックスにチェックを入れます。

Serato Videoの梱包箱に入っていた、またはSeratoオンラインストアから送付されたシリアル番号を入力します。

これで、Serato DJのメイン画面にあるSerato Videoパネルを選択することで、Serato Videoを使用できるようになります。

※ パイオニア DDJ-SP1では、Serato Videoの無償ダウンロード用クーポン券が同梱されています。

このクーポン券に記載してあるバウチャーコードから、Serato Videoのシリアル番号を取得できます。

Serato Videoの起動以降の説明については、本マニュアルの「さあ、始めよう」の項をごらんください。

登録

後日、Serato Videoのシリアル番号の確認が必要になった時のために、シリアル番号を登録することを強くお勧めします。

シリアル番号は、serato.com/yourproducts から登録できます。

ソフトウェアのデ・オーサライズ

あなたが、別のコンピューターでSerato Videoを使用する場合は、現在Serato Videoがインストールされているコンピューター上で、デ・オーサライズをする必要があります。Serato Videoをデ・オーサライズするには、Serato DJのSetup画面からExpansion Packsタブをクリックし、Serato Videoを選択します。次にAuthorizeタブを選択し、Deauthorizeをクリックします。

注意：シリアル番号のデ・オーサライズをすることは、コンピューターからSerato Videoを削除することになります。

この作業を行う前に、必ずシリアル番号の登録を行ってください。

ハードウェア セットアップ

オーディオ出力

Serato Videoを使用するためには、Serato DJに対応した機器またはミキサーをコンピューターへ接続する必要があります。

ビデオ出力 - コンピューターとの接続

Serato Videoは、セカンダリーディスプレイに出力されるように設計されています。コンピューターのメーカーや機種によって、外部のディスプレイにSerato Videoを映し出す手順は異なります。セカンダリーディスプレイ(外部ディスプレイ)の設定は、そのメーカーの取扱い説明書を参照してください。

標準的なビデオの接続：

コンポジットビデオ/RCA

もし、外部ディスプレイにコンポジットビデオで入力するときは、デジタルインターフェース(HDMIやDVIなど)から、RCA端子へ接続するためのコンバーターが必要です。

S-Video

"TV-Out"として、ビデオカードやノート型コンピューターでよく利用されており、アナログTVへ簡単に接続できます。

VGA

コンピューター用のモニターで主に使用されている、標準的なアナログビデオの規格です。

DVI

液晶ディスプレイ、プラズマディスプレイ、およびプロジェクターなどの表示に使われるデジタルインターフェースです。アナログ信号より高い品質で表示することができます。可能であれば、このインターフェースを使うことをお勧めします。

HDMI

HDMIは、非圧縮のデジタルデータを送信するための、コンパクトなオーディオ/ビデオインターフェースです。高解像度のビデオを表示できます。

Serato Videoを4デッキ対応のSerato DJ対応ハードウェアで使用する場合


Serato Videoを4デッキ対応のSerato DJ対応ハードウェアで使用する場合、初期状態においてビデオファイルは、Serato DJのデッキ 1と2にアサインされます。

さあ、始めよう

Serato Videoの起動

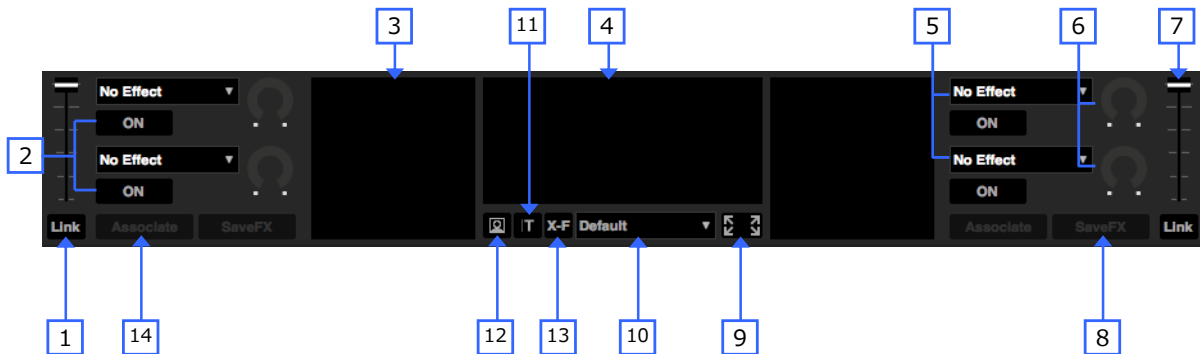
Serato DJのパネルエリアに配置されている、Videoボタンをクリックします。(Videoボタンは、Serato DJのメイン画面上部にあります) Serato Videoのインターフェース(Serato Videoパネル)が表示されます。

アウトプット ウィンドウ

Serato Videoを最初に起動すると、Serato DJのメイン画面に重なるようにSerato Videoのアウトプット ウィンドウが表示されます。多くのユーザーにとって最初にすべき事は、アウトプットウィンドウをセカンダリーディスプレイへドラッグすることです。(「ハードウェア セットアップ」の項を参照してください)
アウトプット ウィンドウをドラッグしたら、Serato Videoパネル内のフェーダートランジション選択メニュー隣のフルスクリーンボタン  をクリックします。セカンダリーディスプレイにアウトプット ウィンドウが全画面表示されます。

アウトプット ウィンドウが不要な場合は、閉じることができます。再度アウトプット ウィンドウを表示させるには、Serato Videoパネル内のメインミックスウィンドウをダブルクリックするか、オフラインプレーヤーのVideoボタンをクリックします。

Serato Videoのインターフェース



1. LINKボタン

Serato Videoのチャンネルフェーダーと、Serato DJに対応するハードウェア機器またはMIDIコントローラーのチャンネルフェーダーをリンクさせます。*1

2. オン/オフボタン

ビデオエフェクトスロットの選択されているエフェクトが、アンロードすることなくオン/オフします。

3. デッキスクリーン

ミックスする前の、ビデオエフェクトのかかった状態が表示されます。

4. メインミックスウィンドウ

アウトプット ウィンドウの内容が表示されます。

5. エフェクト選択メニュー

ビデオエフェクトスロットにアサインするエフェクトを選択します。

6. エフェクトパラメーターつまみ

ビデオエフェクトスロットの選択されているエフェクトのパラメーターを調節します。

7. チャンネルフェーダー

ロードされているビデオの透明度を、0~100%の間で調節します。

8. SaveFX

このボタンを押すことで、ロードされているビデオに、選択されているビデオエフェクトをセーブします。

9. フルスクリーン

Serato Videoのアウトプット ウィンドウを、全画面表示とウィンドウ表示の間でトグル切り換えをします。

10 フェーダートランジション選択メニュー

フェーダーエフェクトスロットにアサインするトランジションエフェクトを選択します。

11 テキストエフェクトボタン

Text Effectパネルを開きます。(詳細については、「テキストエフェクト」の項をごらんください)

12 イメージエフェクトボタン

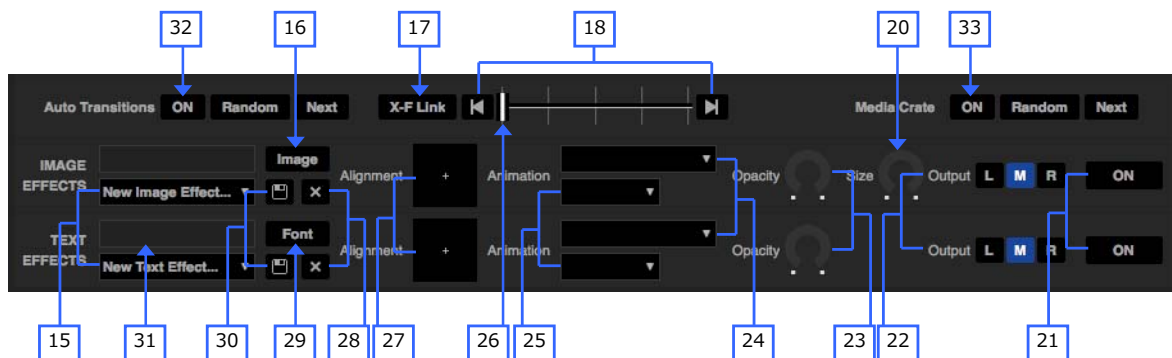
Image Effectパネルを開きます。(詳細については、「イメージエフェクト」の項をごらんください)

13 X-F

Faderパネルを開きます。

14 Associate

ビデオファイルをこのボタンへドラッグすることで、現在ロードされているオーディオトラックに関連づけることができます。



15 イメージエフェクト/テキストエフェクトの選択

あなたが保存したイメージエフェクト/テキストエフェクトを選択します。

16 Image

このボタンをクリックして、ハードディスクドライブから、イメージエフェクトに使用する画像ファイルを選択します。

17 X-F Link

Serato Videoのクロスフェーダーと、Serato DJに対応するハードウェア機器またはMIDIコントローラーのクロスフェーダーをリンクさせます。 *1

18 オートクロスフェード

このボタンをクリックすると、2つのビデオ間で自動でクロスフェードします。

20 イメージエフェクトのサイズ

ロードされたイメージエフェクトのサイズを調節します。

21 イメージエフェクト/テキストエフェクト オン/オフ

選択されたイメージエフェクト/テキストエフェクトをオン/オフします。

22 イメージエフェクト/テキストエフェクトの出力先

イメージエフェクト/テキストエフェクトをどこへ出力するか選択します。
左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、またはミックス後(M)のいずれかを選択することができます。

23 ビデオの透明度

イメージエフェクト/テキストエフェクトの透明度を調節します。

24 イメージエフェクト/テキストエフェクトのアニメーション

イメージエフェクト/テキストエフェクトに反映させるアニメーションを選択します。

25 イメージエフェクト/テキストエフェクトのアニメーション オプション

イメージエフェクト/テキストエフェクトに反映させるアニメーションの速度などを選択します。

26 クロスフェーダー

2つのデッキ間で、クロスフェーダートランジションエフェクトをコントロールします。

27 イメージエフェクト/テキストエフェクトのアライメント用X/Yパッド

選択された画面上に挿入するイメージエフェクト/テキストエフェクトの位置を調節します。

28 イメージエフェクト/テキストエフェクトの削除

このボタンをクリックすると、選択されたイメージエフェクト/テキストエフェクトが削除されます。

29 Font

テキスト編集ウィンドウを開きます。

30 イメージエフェクト/テキストエフェクトのセーブ

このボタンをクリックすると、現在のイメージエフェクト/テキストエフェクトをセーブします。

31 テキスト入力フィールド

このフィールドに、テキストエフェクト用のテキストを入力します。

32 オートトランジション

オートトランジションのONボタンをクリックすると、トラックをロードするたびに、フェーダーエフェクトスロットに新しいトランジションエフェクトがロードされます。また、Nextボタンをクリックすると、トランジションエフェクトがエフェクトの並び順で切り替わります。Randomボタンは、トランジションエフェクトをランダムに呼び出すときに使います。

33 メディアクレート

Serato Video 1.1では、ビデオファイルが関連づけされていないオーディオファイルへ、ビデオファイルのアサインするための「メディアクレート」を作成する機能を提供します。

「メディアクレート」の動作は、メディアクレートのオプション(ON、Random、およびNext)の選択によって決まります。

*1 もし、ミキサー機能をもつSerato DJ対応機器とMIDIコントローラーが接続されている場合は、MIDIコントローラーでなくミキサーのフェーダーへリンクされます。

Serato Videoにファイルをロード

Serato DJライブラリにオーディオファイルを追加するのと同様の方法で、ビデオファイルをライブラリに追加します。ビデオファイルをFinder/Explorerから、Serato DJライブラリにドラッグ&ドロップさせるか、Filesパネルを開いてからインポートしたいビデオファイルをブラウズします。

Serato Videoがインストールされており、それが有効になっていると、Serato DJライブラリは、「All」クレートの下に2つのサブセット("All Audio"と"All Videos")を持ちます。「All Videos」クレートは、あなたのライブラリの中の全てのビデオファイルを含みます。

ビデオファイルは、Serato DJライブラリの他のファイルと同様に、クレートやサブクレートに入れることで整理することができます。Serato DJライブラリの機能の使い方については、Serato DJのマニュアルを参照してください。

ビデオの再生

Serato DJのパフォーマンスにおけるビデオファイルの使い方は様々です。Serato DJとSerato Videoの両方へ、同時にビデオファイルとそのサウンドトラックをロードするか、Serato VideoとSerato DJにそれぞれ別個のビデオファイルとオーディオファイルをロードしてから、それらを同時に再生することもできます。

ビデオファイルのアイコン



オーディオを含んだビデオファイル



ビデオファイルに関連付けされたオーディオトラック

オーディオを含んだビデオファイルをロード

Serato DJとSerato Videoの両方へ同時にビデオファイルをロードするには、

- ・ あなたのSerato DJライブラリから、ロードしたいビデオファイルを探します。
- ・ Serato DJのバーチャルデッキ上にビデオファイルをドラッグするか、ショートカットキーを使ってファイルをロードします。

そのショートカットキーは、左デッキの場合は、SHIFT+左矢印キーで、右デッキの場合は、SHIFT+右矢印キーです。

バーチャルデッキへオーディオ部分が、Serato Videoへビデオ部分がロードされます。

再生するトラックへビデオファイルをロード

Serato DJでオーディオトラックを再生中に、Serato Videoへビデオファイルをロードするには、

- ・ Serato DJのバーチャルデッキへオーディオトラックをロードします。
- ・ Serato Videoの関連させたいデスクトップに、ビデオファイルをドラッグ&ドロップします。

Serato DJ上のオーディオトラックを置き換えることなく、ビデオファイルがロードされます。

オーディオとビデオの関連づけ

ビデオファイルを別個のオーディオトラックへリンクさせます。

- ・ Serato DJのバーチャルデッキへオーディオトラックをロードします。
- ・ ビデオファイルをAssociateボタンへドラッグします。

そのビデオファイルがSerato Videoへロードされて、Serato DJの現在再生中のオーディオトラックに関連づけられます。

次回、そのオーディオトラックがSerato DJへロードされる時、関連づけされたビデオファイルがSerato Videoへ自動でロードされます。

オーディオファイルから、ビデオファイルの関連づけを解くには、SHIFTキーとCTRLキーを押して、Associateボタンをクリックします。

メディアクレート

Serato Video 1.1に搭載されたこの機能は、ビデオファイルが関連づけされていないオーディオファイルへ、ビデオファイルを選択してアサインする「メディアクレート」の作成を提供します。

メディアクレートの動作は、Faderパネルで選択されたオプション(ON、Random、およびNext)によって決まります。

メディアクレートを作成するには、以下の手順を踏みます。

- 1) クレートリストの上にある、Add Crateボタンをクリックします。新しいクレートがクレートリストに現れます。
このクレートを「Media...」という名前に変更します。(この名前の変更は非常に重要です。もしクレートの名前が不正確だとこの機能は働きません)
- 2) 他のクレートへファイルを追加するのと同じ方法で、Serato Videoで使うための推奨ファイル形式を踏襲したビデオファイルをメディアクレートへ追加します。これでメディアクレートは利用可能です。

Serato DJのオンラインモードにて、Serato Videoパネルを開き、X-FボタンをクリックしてFaderパネルを開きます。
これでメディアクレートのオプション、ON、Random、そしてNextが見えるようになります。



ON :

「ON」が選択されていると、Serato Videoはオーディオトラックをバーチャルオーディオデッキへロードすると同時に、メディアクレートからビデオファイルをバーチャルビデオデッキへロードします。

Random :

Random機能が有効になると、Serato Videoはメディアクレートから無作為にビデオファイルを選んでロードします。

Random機能が無効の場合では、Serato Videoはメディアクレートの中のビデオファイルの並び順に従ってビデオファイルをロードします。

Next :

メディアクレートオプションの「Next」をクリックすると、Randomオプションを選択していても選択してなくても、ビデオファイルの並び順でビデオファイルがロードされます。

オートトランジションエフェクト :

Faderパネル上のオートトランジションのオプションを使用すると、バーチャルデッキへトラックをロードするときにトランジションエフェクトの自動ロードができるようになります。自動ロードのオプションとして、無作為にトランジションエフェクトを選択する「Random」を選択することができます。また、「Next」ボタンをクリックすると、トランジションエフェクトが、エフェクトの並び順に従って、ロードされます。

Serato Videoのトランジションエフェクトの自動ロードを有効にするには、Serato VideoのFaderパネルのAuto Transitionsアイコンの隣の「ON」ボタンをクリックします。関連づけされたバーチャルオーディオデッキへトラックがロードされると、自動で新しいトランジションエフェクトがロードされます。Random機能を有効にすると、Serato Videoは無作為にトランジションエフェクトをロードします。

オフラインプレーヤー

オフラインプレーヤーは、Serato DJ対応のハードウェアが接続されていないときに利用可能です。そして現在デフォルトに設定されているオーディオデバイスから音声を出力します。ハードウェアを接続していない状態で、VideoボタンをクリックするとSerato Videoオフラインプレーヤーが開きます。オフラインプレーヤーへトラックをドラッグ&ドロップするか、SHIFTキー + 左矢印キーを押すことによって、トラックをオフラインプレーヤーへロードします。トラックのプレビュー、ビデオファイルのオーディオファイルへのアサイン、キューポイントの作成、ループの設定、そしてエフェクトの設定と保存するのに、オフラインプレーヤーを使うことができます。

ミキシング

アップフェーダーのリンクを解除

「Link」を非選択状態にすることで、Serato Videoのチャンネルフェーダーは、Serato DJ対応ハードウェアのチャンネルフェーダーのコントロールを受け付けなくします。これは、ビデオ出力レベルの影響を受けないで、オーディオのミックスができることを意味します。

クロスフェーダーのリンク

「X-F Link」を非選択状態にすることで、Serato Videoのクロスフェーダーと、Serato DJ対応ハードウェアのクロスフェーダーとのリンクを解除することができます。ビデオ出力の影響を受けないで、オーディオのクロスフェードをすることができます。

Serato Videoのインターフェース上のどんな機能も、マウスを使ってコントロールすることができます。ミキサーコントロールの無いSerato DJ対応ハードウェアを使ってSerato Videoをコントロールする最善の方法は、MIDIコントローラーと組み合わせて使うことです。「MIDI」の項をごらんください。

また、Serato DJのSetup画面からExpansion Packsタブを選択し、Serato VideoのControlタブにある「Cursors Crossfade Video」チェックボックスにチェックを入れると、左右の矢印キーを使ってクロスフェーダーをコントロールすることができます。


注意：この機能を有効にすると、左右の矢印キーを使って、Serato DJのライブラリをスクロールさせることができなくなります。

ビデオエフェクトの概要



Serato Videoは、ビデオに適用することができるエフェクトのリストがあります。利用可能なエフェクトは、お持ちのグラフィックカードの性能によって決まります。デッキあたり、2つのビデオエフェクトスロットがあり、利用可能なエフェクトは、各エフェクトスロットにアサインすることができます。

ビデオエフェクトスロットは、直列に接続されます。最初のビデオエフェクトスロットは、エフェクトのかかっていないコンテンツに適用されます。2番目のビデオエフェクトスロットは、最初のビデオエフェクトスロットを通った後の、エフェクトのかかったコンテンツに適用されます。



テキストエフェクト

テキストエフェクトは、あなたが入力したテキストをビデオに重ねることができます。その外観を編集したり、アニメーションを追加したり、テキストエフェクトをカスタマイズすることができます。Text Effectパネルを有効にするには、メインミックスウィンドウ下の  をクリックします。

1. テキスト入力フィールド
表示するテキストを入力します。
2. Font
テキストのフォント、スタイル、色、およびサイズを選択します。
3. テキストエフェクトのアニメーション
テキストに適用するアニメーションの種類を選択します。
4. テキストエフェクトのアライメント用X/Yパッド
選択した画面上に表示するテキストの位置を調整するために使います。
5. テキストエフェクトのアニメーションオプション
アニメーションの速度等を選択します。

6. テキストエフェクトの出力先
テキストエフェクトを適用する、ビデオの出力先を選択します。
7. テキストエフェクトの選択 - 保存されたテキストエフェクトが無い場合は、新規のテキストエフェクトが適用されます
現在のテキストエフェクトの名前が表示されます。
8. テキストエフェクトのセーブ - Text Effectパネルの  ボタン
現在のテキストエフェクトを保存します。
9. テキストエフェクトの削除 - Text Effectパネルの  ボタン
現在のテキストエフェクトを削除します。
10. テキストエフェクトの透明度
テキストエフェクトの透明度を調節します。

テキストエフェクトの作成と使用

テキストエフェクトを作成するには、最初に、テキスト入力フィールドに表示させたいテキストを入力します。
次に、テキストのフォント、色、アニメーションの種類と速度を選択して、表示するテキストの位置を調節します。
テキストエフェクトの設定に満足したら、Text Effectパネル内の  をクリックします。
もし、現在のテキストエフェクトへの変更を破棄して、新しいテキストエフェクトを作成する場合は、テキストエフェクト選択用の
ドロップダウンボックスから、「New Text Effect」を選択します。既に保存してあるテキストエフェクトに変更を加えるには、
Text Effectパネルを開いて、その保存してあるテキストエフェクトを選択します。
それから変更を加えて  をクリックします。テキストエフェクトスロットにテキストエフェクトがロードされていて、
それが現在オンの状態であっても、テキストエフェクトは更新されます。

テキストエフェクトのアニメーションの使用

アニメーションは、テキストエフェクトの効果を更に高めます。 アニメーションを使わないことを選択した場合は、
そのテキストは、シンプルに画面上に表示されます。

Scroll - テキストが画面をスクロールします。 左から右へのスクロール、右から左へのスクロール、下から上へのスクロール、
そして、上から下へのスクロールのいずれかを選択することができます。

Zoom BPM - テキストがロードされているトラックのBPMに合わせてズームします。

Zoom Bass - テキストがロードされているトラックの低域のレベルに応じてズームします。


テキストエフェクトのアニメーションのオプション

アニメーションの種類が、Scrollの場合は、Slow/Medium/Fastから速度を選択します。



アニメーションの種類が、Zoom BPMまたはZoom Bassの場合は、Subtle/Noticeable/Over the Topから選択します。

イメージエフェクト



イメージエフェクトは、静止画像をビデオに重ねて表示することができます。 その外観を編集したり、アニメーションを追加したり、
イメージエフェクトをカスタマイズすることができます。

Image Effectパネルを有効にするには、メインミックスウィンドウ下の  をクリックします。

1. 画像ファイル名
現在ロードされている画像のファイル名です。
2. Image
画像ファイルを選択するためのウィンドウを開いて、ロードする画像ファイルを選択します。
サポートするファイルの形式は、以下の拡張子(jpg、png、そしてbmp)を持つファイルです。
3. イメージエフェクトのアニメーション
画像に適用するアニメーションの種類を選択します。

4. イメージエフェクトのアライメント用X/Yパッド
メインミックスウィンドウ上に表示する画像ファイルの画像の位置を調整するために使います。
5. イメージエフェクトのアニメーションオプション
アニメーションの速度等を選択します。
6. イメージエフェクトの出力先
イメージエフェクトを適用する、ビデオの出力先を選択します。
7. イメージエフェクトの選択 - 保存されたイメージエフェクトが無い場合は、新規のイメージエフェクトが適用されます
現在のイメージエフェクトの名前が表示されます。
8. イメージエフェクトのセーブ - Image Effectパネルの  ボタン
現在のイメージエフェクトを保存します。
9. イメージエフェクトの削除 - Image Effectパネルの  ボタン
現在のイメージエフェクトを削除します。
10. イメージエフェクトの透明度
イメージエフェクトの透明度を調節します。

イメージエフェクトの作成と使用

イメージエフェクトを作成するには、最初にImageボタンをクリックして、表示したい画像ファイルを選択します。次に、アニメーションの種類と速度を選択して、画像を表示する位置を調節します。イメージエフェクトの設定に満足したら、Image Effectパネル内の  をクリックします。もし、現在のイメージエフェクトへの変更を破棄して、新しいイメージエフェクトを作成する場合は、イメージエフェクト選択用のドロップダウンボックスから、「New Image Effect」を選択します。既に保存してあるイメージエフェクトに変更を加えるには、Image Effectパネルを開いて、その保存してあるイメージエフェクトを選択します。それから変更を加えて  をクリックします。イメージエフェクトが現在ロードされていたとしても、そのイメージエフェクトは更新されます。

イメージエフェクトのアニメーションの使用

アニメーションは、イメージエフェクトの効果を更に高めます。アニメーションを使わないことを選択した場合は、その画像は、シンプルに画面上に表示されます。

Scroll - 画像が画面をスクロールします。左から右へのスクロール、右から左へのスクロール、下から上へのスクロール、そして、上から下へのスクロールのいずれかを選択することができます。

Zoom BPM - 画像がロードされているトラックのBPMに合わせてズームします。

Zoom Bass - 画像がロードされているトラックの低域のレベルに応じてズームします。

イメージエフェクトのアニメーションのオプション

アニメーションの種類が、Scrollの場合は、Slow/Medium/Fastから速度を選択します。

アニメーションの種類が、Zoom BPMまたはZoom Bassの場合は、Subtle/Noticeable/Over the Topから選択します。

フェーダートランジションの概要

Serato Videoは、あるデッキから、もうひとつのデッキへビデオがフェードしながら切りかわるときに適用される、フェーダートランジション機能を備えています。使用できるトランジションエフェクトは、お持ちのグラフィックカードの性能によって決まります。トランジションエフェクトスロットのトランジションエフェクトは、一度につきひとつが使うことができます。

MIDI

概要

Serato Videoの全ての機能は、MIDIにアサインすることができます。MIDIコントローラーで、Serato Videoを完全にコントロールすることができます。

MIDIコントローラーのセットアップ

Serato Videoを使うためのMIDIコントローラーのセットアップは、Serato DJの場合と同様です。詳細については、Serato DJのソフトウェアマニュアルの「MIDI」の項をごらんください。

パイオニア DDJ-SP1でSerato Videoを使用する場合は、MIDIのセットアップは不要です。

ボタンとつまみの割り当て

MIDIをアサインする場合は、Serato Videoの機能が見えている必要があります。MIDIアサインを始める前にSerato Videoパネルを開いておいてください。

MIDIアサインモードを有効にするには、Serato DJのメイン画面の右上にある、MIDIボタンをクリックします。個々のMIDIをアサインするには、Serato Videoパネル上のボタンやつまみ等をクリックします。その後で、MIDIコントローラーの操作子进行操作します。MIDIアサインメントボックスに、そのSerato Videoの機能がマッピングされたことが表示されます。

MIDIアサインを解除するには、Serato Videoパネル上のボタンやつまみ等をクリックしてから、コンピューターのキーボードのリターンキーを押します。

利用可能なボタンとつまみ

これらのボタンやつまみの詳細については、「Serato Videoのインターフェース」の項をごらんください。

1. チャンネルフェーダー
MIDIアサイン可能なフェーダーか、似たようなスライダータイプの操作子をアサインすることで、良い結果が得られます。
2. チャンネルフェーダーの「Link」
オーディオのチャンネルフェーダーとビデオのチャンネルフェーダーとの間をリンク/リンク解除します。
MIDIアサイン可能なボタンをアサインします。
3. ビデオエフェクトパラメーターつまみ
4. ビデオエフェクトのロード(ビデオエフェクトの選択)
MIDIアサイン可能なロータリータイプのノブをアサインすることで、良い結果が得られます。
5. ビデオエフェクト オン/オフ ボタン
MIDIアサイン可能なボタンをアサインします。
6. トランジションエフェクトのロード(トランジションエフェクトの選択)
利用可能なトランジションエフェクトをスクロールして選択します。
MIDIアサイン可能なロータリータイプのノブをアサインすることで、良い結果が得られます。
7. クロスフェーダーのリンク「X-F Link」
オーディオのクロスフェーダーとビデオのクロスフェーダーとの間をリンク/リンク解除します。
MIDIアサイン可能なボタンをアサインします。
8. クロスフェーダー
MIDIアサイン可能なフェーダーをアサインすることで、良い結果が得られます。
9. 左右のオートクロスフェードボタン
MIDIアサイン可能なボタンをアサインします。

10. イメージエフェクトのロード(イメージエフェクトの選択)
11. テキストエフェクトのロード(テキストエフェクトの選択)
MIDIアサイン可能なロータリータイプのノブをアサインすることで、良い結果が得られます。

12. Faderパネルボタン「X-F」
13. Image Effectパネルボタン
14. Text Effectパネルボタン
15. フルスクリーンボタン
MIDIアサイン可能なボタンをアサインします。

16. イメージエフェクトサイズ
MIDIアサイン可能なロータリータイプのノブをアサインすることで、良い結果が得られます。

17. イメージエフェクトの出力先選択ボタン
18. テキストエフェクトの出力先選択ボタン
MIDIアサイン可能なボタンをアサインします。

19. イメージエフェクトのアニメーションタイプ選択用ドロップダウンボックス
20. イメージエフェクトのアニメーションオプション選択用ドロップダウンボックス
21. テキストエフェクトのアニメーションタイプ選択用ドロップダウンボックス
22. テキストエフェクトのアニメーションオプション選択用ドロップダウンボックス
MIDIアサイン可能なロータリータイプのノブをアサインすることで、良い結果が得られます。

23. テキストエフェクト/イメージエフェクト オン/オフボタン
24. テキストエフェクト/イメージエフェクトのセーブボタン
25. Associateボタン
MIDIアサイン可能なボタンをアサインします。

26. テキストエフェクト/イメージエフェクトの透明度
MIDIアサイン可能なロータリータイプのノブをアサインすることで、良い結果が得られます。

ビデオエフェクトとトランジションエフェクト

ビデオエフェクトの説明

ビデオエフェクトは、5つのカテゴリ(Audio Reactive、Equalizer、Lighting、Record、およびTransform)に分かれています。

レーティング

グラフィックプロセッサの負荷に応じて、3段階に分かれています。 * = 軽い、** = 少し重い、*** = 重い

Audio Reactive

ANALYZER (レーティング *)

8バンドのスペクトラムアナライザーの画像が合成されて表示されます。 スペクトラムアナライザーの色を選択できます。

ANALYZER BLOCKS (レーティング **)

スペクトラム解析の結果によって、タイル状に多数分割された画面のうち、見える領域と見ない領域に分かれます。

ANALYZER IMAGE (レーティング **)

スペクトラム解析の結果が、いくつかの柱状の物体として表示されます。

ANALYZER LINE (レーティング *)

スペクトラム解析の結果をもとに作成された、1本の線が表示されます。 線の色は選択することができます。

AUDIO CSL (レーティング **)

オーディオの低域、中域、高域の成分が、ビデオのコントラスト、明るさ、および彩度に作用します。

AUDIO FADE (レーティング *)

画面が3分割されて、それぞれがオーディオの低域、中域、高域の量に応じて明るさが変化します。

AUDIO KALEIDOSCOPE (レーティング **)

再生中のオーディオによって変化する万華鏡を生成します。

AUDIO RGB (レーティング **)

オーディオの低域、中域、高域の成分が、ビデオの赤、緑、青に作用します。

AUDIO SPLIT (レーティング *)

画面が3分割されて、それぞれがオーディオの低域、中域、高域の量に応じてズームされます。

BASS BLUR (レーティング ***)

再生中のオーディオの低域の量に応じて、ビデオにぼかすような効果を与えます。

BASS ZOOM (レーティング *)

再生中のオーディオの低域の量に応じて、ビデオがズームされます。

ISOLATOR BASS (レーティング *)

再生中のオーディオの低域の量に連動して、ひとつの色を除き、ビデオの彩度を下げます。

FLASH ON BPM (レーティング **)

再生中のトラックのBPMに合わせて、ビデオの暗い部分がフラッシュします。

TREBLE BLUR (レーティング ***)

再生中のオーディオの高域の量に応じて、ビデオにぼかすような効果を与えます。

TREBLE ZOOM (レーティング *)

再生中のオーディオの高域の量に応じて、ビデオがズームされます。

Equalizer

CSL EQ (レーティング **)

Serato Video対応機器のEQつまみが、ビデオのコントラスト、彩度、明るさへ作用します。

RGB EQ (レーティング **)

Serato Video対応機器のEQつまみが、ビデオの赤、緑、および青に作用します。

Lighting

ANAGLYPH 3D (レーティング **)

「3D眼鏡」エフェクトです。

BLUR (レーティング ***)

ビデオにぼかし効果を与えます。

BRIGHTNESS (レーティング **)

ビデオの輝度を増やします。

CHROMA KEY GREEN (レーティング **)

ビデオの緑の部分を、他のもので置き換えます。

COLOR ISOLATOR (レーティング **)

ひとつの色は残したまま、他はグレースケールになります。

COLOR PHOTOCOPY (レーティング ***)

ビデオのぼやけた部分を無地へ置き換えます。

CONTRAST (レーティング **)

ビデオの明るい部分と暗い部分の差を大きくしたり、小さくしたりします。

EDGE DETECT (レーティング ***)

ビデオの輪郭部分のみを抜き出したような効果を与えます。

EMBOSS (レーティング ***)

ビデオに窪みをつけたり、浮かび上がらせるような効果を与えます。

FALSE COLOR (レーティング *)

ビデオの中の色を、プリセットされているさまざまなパレットへ置き換えます。

Filter

GAMMA (レーティング **)

暗部をより暗くします。

LED BILLBOARD (レーティング ***)

ビデオをたくさんのLEDの集まりのように表示します。

LUMA KEY BLACK (レーティング **)

ビデオの黒い部分を、他のデッキのビデオへ置き換えます。

LUMA KEY WHITE (レーティング **)

ビデオの白い部分を、他のデッキのビデオへ置き換えます。

NEGATIVE (レーティング **)

ビデオの色を反転させます。

POSTERIZE (レーティング **)

色の段階数を3へ減らします。

ROTOSCOPE (レーティング ***)

ビデオをもとに、手で描いた(トレースした)アニメーションのように見える効果を与えます。

SATURATION (レーティング **)

ビデオの彩度を変えることができます。

SEPIA (レーティング **)

セピア調に色を褪せさせます。

SHARPEN (レーティング ***)

ビデオの輪郭をはっきりさせます。

UV PAINT (レーティング **)

黒以外のほどほどにカラフルな部分の輝度と色を完全に飽和させます。

Record

RECORD ROTATE (レーティング *)

レコードの回転速度に合わせて、ビデオが回転します。

RECORD FADE (レーティング *)

レコードの回転速度で、ビデオがフェードします。

Transform

BLOCK COLUMNS (レーティング *)

画面が多数のブロック状の物体へ分割されて、それらがオーディオの低域によって、だんだん崩れていきます。

CENTER FADE (レーティング *)

ビデオが画面の中心に向かってフェードします。

DELAY GRID (レーティング ***)

再生中のビデオの過去16フレーム分を4x4の小さい画面に表示します。フレームが切りかわると、16個の各画面も更新されていきます。

FRAME FREEZE (レーティング ***)

ある期間、ビデオのフレームを静止させます。静止させる期間は調整できます。

FRAME PULSE (レーティング ***)

ある周期で、ビデオの輪郭部分が繰り返しズームするような効果になります。繰り返しの周期は調整できます。

KALEIDOSCOPE (レーティング *)

万華鏡を生成します。

MIRROR (レーティング *)

画面が2分割されて、元の画像と鏡で写したような画像が同時に表示されます。

ROTATE (レーティング *)

画面全体を回転させます。回す角度を調整できます。

SMUDGE (レーティング **)

画面の中央部分にある物体の輪郭が、画面の端まで引き延ばされたような効果が得られます。

SPLIT (レーティング *)

画面が5つに分割されます。

TILE (レーティング *)

画面が数個から無数のタイル状の物体に分割されて、そのひとつひとつにビデオが映し出されるような効果が得られます。

V-HOLD (レーティング **)

垂直方向の同期が外れたような効果になります。

ZOOM (レーティング *)

画面を拡大します。

ZOOM TILE (レーティング *)

TILEエフェクトとZOOMエフェクトを組み合わせた効果になります。

トランジションエフェクト

ADDITIVE (レーティング **)

明るい部分が、明るいままミックスされます。

ADDITIVE AVERAGE (レーティング *)

DEFAULTとADDITIVEの間のようなトランジションエフェクトです。

BOX BOTH (レーティング *)

クロスフェーダーを動かすたびに、BOX HとBOX Vトランジションエフェクトが交互に行われます。

BOX H (レーティング *)

水平方向に回転する箱状の物体の面に、ビデオが映し出される効果のトランジションエフェクトです。

BOX V (レーティング *)

垂直方向に回転する箱状の物体の面に、ビデオが映し出される効果のトランジションエフェクトです。

CENTER (レーティング *)

DEFAULTに似ていますが、クロスフェーダーをある程度中心に近づけないとミックスが開始されません。

DEFAULT (レーティング *)

普通のトランジションです。

DIFFERENCE FADE (レーティング *)

トランジション中は、2つのビデオの差分が表示されます。

GRID 2x2 (レーティング *)

トランジション中は、2x2の小さな画面が現れて、そこに表示される内容が、切り換え先のビデオへ切りかわっていきます。

GRID FADE (レーティング *)

トランジション中は、3x3の小さな画面が現れて、そこに表示される内容が、切り換え先のビデオへ切りかわっていきます。

GRID SEQUENCE (レーティング *)

GRID FADEに似た効果が得られます。トランジション中の画面が切りかわっていくパターンが異なります。

GRID SIMPLE (レーティング *)

GRID FADEに似た効果が得られます。トランジション中の画面が切りかわっていくパターンが異なります。(パターンは固定です)

LATCH 50 (レーティング *)

フェーダーの中心で、ビデオが瞬時に切りかわります。

LUMA KEY FADE (レーティング **)

トランジション中は、切り換え元のビデオの中の輝度の低いところからミックスされていきます。

MELT (レーティング ***)

2つのビデオが溶け合わさっていく効果が得られます。

PUSH SLIDE H (レーティング *)

入ってくる(切り換え先の)ビデオが、出て行く(切り換え元の)ビデオを水平方向へ押しのけるような効果のトランジションエフェクトです。

PUSH SLIDE V (レーティング *)

入ってくる(切り換え先の)ビデオが、出て行く(切り換え元の)ビデオを垂直方向へ押しのけるような効果のトランジションエフェクトです。

SCRATCH (レーティング *)

フェーダーの端付近で、ビデオが瞬時に切りかわります。

SCRATCH FADE (レーティング *)

SCRATCHのバリエーションです。トランジション中にアップフェーダー(チャンネルフェーダー)によってミックスされたビデオを加えることができます。

SMUDGE FADE (レーティング **)

ビデオエフェクトのSMUDGEのような効果を付加しながらビデオが切りかわっていくトランジションエフェクトです。

SPIN BOTH (レーティング *)

画面全体が、水平方向を軸にする回転と、垂直方向を軸にする回転のトランジションエフェクトが交互に行われます。

SPIN H (レーティング *)

画面全体が、水平方向を軸にして回転するような効果のトランジションエフェクトです。

SPIN V (レーティング *)

画面全体が、垂直方向を軸にして回転するような効果のトランジションエフェクトです。

SWAP (レーティング *)

切り換え元のビデオが縮小しながらフェードアウトし、切り換え先のビデオが拡大しながらフェードインします。

TILE WAVE H (レーティング **)

いくつものタイル状の物体が、水平方向にめくれるような効果のトランジションエフェクトです。

TILE WAVE V (レーティング **)

いくつものタイル状の物体が、垂直方向にめくれるような効果のトランジションエフェクトです。

UPFADERS ONLY (レーティング *)

ビデオのミックスは、アップフェーダー(チャンネルフェーダー)による操作のみが有効になります。クロスフェーダーを操作しても、ビデオはミックスされません。

ソフトウェア セットアップオプション

Serato DJのSetup画面からExpansion Packsタブをクリックし、Serato Videoを選択すると、5つのタブ(Output、Control、Effects、Info、およびAuthorize)が現れます。

Outputオプション

Window Aspect Ratio

アスペクト比とは、画像を映し出すときの縦横比のことです。よく使われるアスペクト比は4:3(かつてのアナログTVなど)および16:9(HDTVなどのワイド画面)です。出力されるビデオが4:3または16:9の設定では、全画面モードでない場合、Serato Videoのアウトプットウィンドウは、必ずそのアスペクト比で制限されます。アスペクト比を決めてビデオをプレビューしたい場合は、この設定を使います。

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| No constraints | 出力されるビデオのアスペクト比は制限されません。 |
| 16:9 | 出力されるビデオのアスペクト比が、16:9に設定されます。 |
| 4:3 | 出力されるビデオのアスペクト比が、4:3に設定されます。 |

Quality

描画速度を犠牲にして、ビデオの表示品質を向上させます。ドロップダウンメニューから画質を選択します。「Poor」「Low」「Medium」「High」「Best」の5つから選択することができます。もし、ビデオのフレームレートが低い、または動きがぎくしゃくすると感じるなら、画質の低い方の設定にしてみてください。ほとんどの標準的な画質のビデオは、「Medium」くらいを要求するでしょう。それより高い設定は、CPUを無駄に使っているかもしれません。もし、高画質の、またはHD解像度のビデオファイルを使うなら、「High」または「Best」を使ってください。

Arrangement

アウトプットウィンドウについて、ドロップダウンメニューから好みのオプションを選択してください。オプションは以下の3つがあります。

- | | |
|------------------------------|---|
| Normal(Output) | 分割されないアウトプットウィンドウです。ミックスされたビデオが表示されます。 |
| Left - Right | アウトプットウィンドウ内が2分割されていて、左半分が左チャンネルのビデオが、右半分が右チャンネルのビデオが表示されます。 |
| Left - Output - Right | アウトプットウィンドウ内が3分割されていて、左側に左チャンネルのビデオが、右側に右チャンネルのビデオが、中央にミックスされたビデオがそれぞれ表示されます。 |

出力されるビデオは、他のビデオ機器(アナログビデオミキサーやプロジェクターなど)へ送られます。

Media treatment

このオプションは、ビデオファイルのビデオのアスペクト比と、アウトプットウィンドウのアスペクト比が異なる場合に、Serato Videoがどのように処理するかを選択します。

Preserve	ビデオもとのアスペクト比が維持されます。また、トリミングは行われません。 Serato Videoはレターボックス(画面の上下に付加される黒い帯)または、ピラーボックス(画面の左右に付加される黒い帯)を、画面の余ったスペースに挿入します。
Stretch	画面いっぱいに表示させるために、ビデオの縦または横方向のどちらかが常に伸ばされます。 もし、アウトプットウィンドウとビデオファイルのビデオのアスペクト比が異なる場合、ビデオは歪んで表示されます。
Center-cut	縦横両方向ともにいっぱいに表示されるようにズームされます。もし、ズームの結果、アウトプットウィンドウより大きくなってしまった場合は、はみだした部分が切り取られます。
Letterbox	横方向は常に画面の幅いっぱいに表示されます。もし、ビデオファイルのビデオの縦方向が、アウトプットウィンドウより大きい(すなわち、16:9のウィンドウに、4:3のビデオが表示される)場合は、そのビデオの上下の一部が切り取られます。また、ビデオの縦方向が、アウトプットウィンドウより小さい(すなわち、4:3のウィンドウに、16:9のビデオが表示される)場合は、画面の上下にレターボックスが挿入されます。

V-SYNCを使う

このオプションは、初期設定ではオンになっています。表示されるビデオの"tearing"(画面内でビデオフレームが切りかわることによる画像の乱れ)を避けるために、Serato Videoのフレームレートと、お使いのモニターのリフレッシュレートを同期させます。このオプションをオフにすることで、あなたのシステムが得ることのできるフレームレートを確かめることができます。これは主に、ベンチマーク用ツールとして使われます。ベストな表示品質のために、このオプションはオンにまましてください。

Frame Blendingを使う

隣接するフレームをミックスすることによって、低いフレームレートのビデオでも、ビデオの再生をより滑らかにさせます。フレーム間のジャンプを減らすことで、ビデオのゆっくりとした動きをより滑らかにします。このオプションにチェックを入れると、CPUの負荷が増えます。

Buffer Size

この設定は、Serato Videoのデータの一時保存用に、どのくらいの量のRAMを確保するかを決めます。

Delay Compensation

Serato Video 1.1のOutputタブにあるこの機能は、ビデオ信号処理が原因でオーディオとビデオが同期しなくなる問題を取り除くために、ミックスされた後のビデオストリームを0.5秒前後にシフトできるようにします。

Controlオプション

Auto Crossfade Speed

オートクロスフェーダーの速度を調節するために、画面上のスライダーを動かしてください。ゆっくりとクロスフェードさせるには画面上のスライダーを左方向へ動かしてください。速くクロスフェードさせるには、それを右方向へ動かしてください。

Cursors Crossfade Video

お使いのコンピューターのキーボードのカーソルキーを使ってクロスフェードさせるには、このチェックボックスにチェックを入れます。

Contour Faders

Serato DJ対応ハードウェアのアップフェーダー/クロスフェーダーのカーブのコントロールを有効にします。

Effectsオプション

Effect Restrictions

Serato Videoは、あなたのシステムが使うことのできるビデオエフェクトとトランジションエフェクトを自動的に決定します。お持ちのグラフィックカードを使うときの制約が、ここに表示されます。

Infoオプション

Video Resolution Left/Right

左チャンネルおよび右チャンネルのデッキへロードされているビデオファイルの元の解像度が表示されます。

Buffered Frames Left/right

グラフィックプロセッサによって一時保存されるフレーム数が表示されます。

Colorspace Left/Right

QuickTime®の色空間が表示されます。

Output Resolution

Serato Videoのアウトプットウィンドウの現在の解像度が表示されます。

Output FPS

Serato Videoが出力するビデオのフレームレートが表示されます。これは、元のビデオのフレームレートではなく、ビデオエフェクトやトランジションエフェクト処理後のフレームレートです。

YUV Handling

色空間の設定です。「Default」「Software only」「RGB only」から選びます。

Version Number

ご使用のSerato Videoのバージョン番号が表示されます。

Enable Debug Panel

Serato Videoの中のデバッグパネルを有効にするには、このチェックボックスにチェックを入れます。

デバッグパネルを有効にするには、"MovieInfoBatch"アプリケーションをインストールしなければなりません。

"MovieInfoBatch"は、あなたのライブラリの中のファイルのビデオ/オーディオコーデックの情報を取得するためのツールです。

そしてそれは、問題解決のためのツールとしても使うことができます。

<http://serato.com/video/support/9253/how-to-get-information-about-your-video-files>

Authorizeオプション

Serato Videoをオーサライズ/デ・オーサライズします。

ビデオフォーマットとコーデック

Serato Videoは、ビデオファイルをデコードするのに、Mac OS XではQuickTime®を、WindowsではDirectShowを使います。このことは、QuickTime®とDirectShowの現在インストールされているバージョンが有する恩恵と制約を、Serato Videoも持つことを意味します。Serato Videoは、QuickTime®バージョン7以上を必要とします。

QuickTime

QuickTime®は、Apple®から無償で利用可能です。

Mac版QuickTime®のバージョン確認

QuickTime Playerを起動してください。 QuickTime Playerメニューの中の「QuickTime Playerについて」をクリックします。

Windows版QuickTime®のバージョン確認

QuickTime Playerを起動してください。 Helpメニューの中の「QuickTime Playerについて」をクリックします。

追加コーデックのインストール

QuickTime®は、初期状態で多くのビデオフォーマットを再生することができます。 システムにQuickTime®コンポーネントをインストールすることによって、より多くのビデオフォーマットを追加することができます。

QuickTime®コンポーネントは、以下のウェブサイトから入手することができます。

<http://www.apple.com/quicktime/download/>

QuickTime®のダウンロードも含め、ウェブサイトの指示に従ってください。

Mac上でビデオをデコードするのに、"Perian"を推奨します。

DirectShow

DirectShowは、Microsoft®によって開発された、マルチメディアフレームワークです。 それはWindowsに含まれています。

追加コーデックのインストール

DirectShowは、初期状態で多くのビデオフォーマットを再生することができます。 システムにDirectShowコーデックパッケージをインストールすることによって、より多くのビデオフォーマットを追加することができます。

推奨されるDirectShowコーデックの一覧については、以下のウェブサイトを確認できます。

<http://serato.com/video/support/9313/what-codecs-should-i-use-with-directshow-for-serato-video>

ビデオファイル

ビデオファイルは、ビデオとオーディオトラックの"コンテナ"です。 "コンテナ"内部のビデオとオーディオトラックは、様々なコーデックで構成することができます。

コーデックは、ビデオファイルにおけるビデオおよびオーディオデータを格納する形式のことです。

一般的なオーディオコーデックの例としては、MP3やAACがあります。 一般的なビデオコーデックの例としては、H.264やMPEG-4があります。

例えば、H.264のビデオトラックとMP3オーディオトラックからなる「.mov」ファイルがあります。

また、それとは全く異なるコーデック(例えば、AACオーディオとMPEG-4ビデオ)を含む、別の「.mov」ファイルもあります。

これらのファイルは、あなたのシステムの中に同時に存在しているかもしれませんが、それらのファイルの中のデータ形式は全く異なります。 ご使用のエンコードプログラム、またはビデオ配信サービスは、そのビデオファイルのコーデックについて情報を提供するでしょう。

Containers 以下の拡張子を持つファイルをサポートします。

mov, mp4, m4a, avi, flv, mpg, mpeg, dv, m4v

ビデオコーデック 以下のフォーマットをサポートします。

H.264, DV, Motion JPEG A, Motion JPEG B, MPEG-4

コーデック

ビデオファイルのために、あなたは常にCPU負荷とファイルサイズ、そして画質の間でバランスをとっています。大きなファイルは画質が良く、CPUパワーをあまり使わないかもしれませんが。しかし、最新のハードディスクをもってしてもそれぞれに数百メガバイトの容量を持つビデオファイルは、あなたのハードディスク容量をすぐに使い尽くしてしまうでしょう。反対に、たった数メガバイトに圧縮されたビデオファイルは、ハードディスク容量をとらないが、画質とCPU負荷については高圧縮のファイルでは我慢することになるでしょう。あなたは、自分のシステムにとっての理想的な設定を模索することになるでしょう。以下の説明は、Serato Videoがサポートする各コーデックの概要です。サポートするビデオファイルの種類やエンコードに関するヒントや技について知りたい場合は、以下のウェブサイトへアクセスしてください。

<http://serato.com/support>

DV 多くのビデオカメラで使われている、低圧縮の形式です。そして、一般にビデオ編集プログラムに使われています。大きなファイルサイズの代償として、高画質と低いCPU負荷をもたらします。

Motion JPEG AとB Motion JPEGは、DV形式に非常に似ています。DV形式より若干小さいファイルサイズになります。CPU負荷は小さいですが、僅かな画質の低下をとまいません。

MPEG-4 MPEG-4は、中程度のファイルサイズ、画質、およびCPU負荷となる、広くサポートされるコーデックです。

H.264 MPEG-4の一種で、最新のものです。高いCPU負荷の代償として、小さなファイルサイズで高画質をもたらします。

追記 Serato Videoは、例えばDivXのように、QuickTime®コンポーネントをインストールすることによって、追加されるコーデックを再生しようとするでしょう。しかし、その結果は多様です。そしてそれは、Seratoによって正式にはサポートされません。

トラブルシューティング

Serato Videoを使うことで遭遇する多くの問題は、お使いのグラフィックカードのドライバーソフトウェアを最新にすることで解決されます。最新のドライバーソフトウェアを入手するために、お使いのグラフィックカードのメーカーサイトへアクセスしてみてください。

もし、表示されるビデオにフレームレートの低下、または「ぎくしゃくしている」ように感じたら・・・

1. 不要なアプリケーションソフトウェアを閉じてください。
2. レーティングの低いエフェクトを使ってください。
3. 低い解像度のビデオを使ってください。
4. 画質を下げてください。
5. 可能なら、低い解像度のモニターを使ってください。
6. ハードディスクをデフラグしてください。

もし、「ROTATE」エフェクトで黒い線が見えるようであれば・・・

ビデオエフェクトスロット 1に"ROTATE"エフェクトを、スロット 2に"ZOOM"エフェクトをロードしてください。"ZOOM"エフェクトは、"ROTATE"エフェクトの間、抜き出された輪郭を埋めます。

もし、ファイルのシーク中にレスポンスの低下を感じたら、または逆再生中に「ぎくしゃくしている」ように感じたら・・・

キーフレームをもっと増やすようにして、ファイルの再エンコーディングを試みてください。Serato Videoは、おそらく特定のフレームを得るために、大量の情報をデコードすることを余儀なくされているはずです。

画面が真っ暗になってしまった！

Serato Videoのアウトプットウィンドウが、プライマリディスプレイより優先になってしまっています。アウトプットウィンドウをダブルクリックして、ウィンドウモードへ戻します。アウトプットウィンドウをセカンダリディスプレイへドラッグします。その後フルスクリーンモードへ戻します。

ビデオファイルがライブラリにロードされない

ロードしようとしているファイル形式が、Serato Videoがサポートしている形式一覧にあるか確認してください。また、Serato DJはサポートしているオーディオコーデックを含むファイルのみをライブラリへ追加することを認めています。

これ以上のFAQ、トラブルシューティング、ヒントについて知りたい場合は、以下のウェブサイトへアクセスしてください。
<http://serato.com/support>

サポート

Serato Videoの記事、FAQ、およびオンラインサポートは以下のウェブサイトです。
<http://serato.com/support>

エンコーディングや変換のチュートリアル、Serato Videoに関連するトピックをお読みください。

商標および登録商標について

- ・ Pioneerはパイオニア株式会社の登録商標です。
- ・ Serato DJ、Serato Videoは、Serato Audio Research Ltd.の登録商標です。
- ・ Microsoft、Windowsは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・ Mac、Mac OS、QuickTime、およびFinderは、米国およびその他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・ IntelおよびIntel Coreは、米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
その他記載されている会社名および製品名等は、各社の登録商標または商標です。

© 2013 パイオニア株式会社 禁無断転載

パイオニア株式会社